

令和6年度第3回たちばな支援学校学校運営協議会

令和6年度 第3回 令和7年2月10日(月)

出席者:委員7名、傍聴人5名

議題

- ① 学校評価アンケートの結果について
- ② 学校重点目標の評価について（協議）
- ③ 目指す子ども像について
- ④ 意見交換

協議した内容

① 学校評価アンケートの結果説明（金川教頭より）

- ・保護者の回答率について、2年前に回答方法をSNSに変更したことで低くなつたが、今年度声掛けを増やしたこと、回答率が上がつた。
- ・全体的な評価は昨年度より上がつてゐる。

特に上がつた項目:【教員】全校研修、ヒヤリハットの共有、業務改善（数値はまだ低いため、課題はある）

低かった項目:【教員】教員として自覚ある態度（引き続き啓発・指導を行う）

【保護者】学習成果（懇談の持ち方等の工夫）、関係機関との連携（項目を検討する）

② 学校評価シートについて説明（鷲幕校長より）

- 1 全校研修の充実・個別の指導計画での3観点評価・若手教員への研修の充実
- 2 ゲストティーチャーの充実・地域の方への物品販売を今後検討・交流をインクルーシブの観点で充実させる
- 3 地域と連携した防災対策（備蓄品の確保、保管場所が課題）・ヒヤリハット共有（教員の危機意識の向上、人権意識（日頃からの指導と研修）
- 4 高等学校の通級指導教室に関する地域の学校との連携・校長通信やインスタグラムによる情報発信（今後はさらに充実させていく）

*来年度の学校経営ビジョンは今年度と同じ4つの柱で進めていきたいと考える。

協議

（委員）作業製品の販売の現状は？

→チャレンジショップ「アピ」（広川町内）に商品を置かせてもらつていて、保護者向け作業製品販売、ロハスフェア（アバローム紀の国で対面販売）、たちばな応援団の方に対面販売、校内行事で無人販売

（委員）対面販売を大切にすべき。保護者だけでなく、色々な人に顔を合わせて販売し、商品に対する意見がもらえることでコミュニケーション力や作業意欲につながる。振興局等に声をかけてみてはどうか？

→販売の機会を平日にもつのは難しい。

（委員）土日の方が人は集まると思うが、何か方策はないか？ 良い製品を作っているので…。

以前、「しらうお祭り」に店を出さないかと声をかけてもらつてある。

→授業の中で製品を作つてるので、商品の量が追いつかなくなる課題も出てくる。

（委員）休日に販売するとなると、教員の働き方の問題も出てくるのではないか？

（委員）作業所の製品販売は、例年イベントに出品させてもらつていて。うまいもん祭りは大勢のお客さんが来る。

（委員）学校は、依頼があれば出品できるのか？

→課題はあるが、可能なら出品することができる

（委員）運動会など人がたくさん集まる時に販売会を設定してはどうか？教員の出勤日でもあるので…。

（委員）つながり文化祭に和歌山市の支援学校は出品されているが…。

→たちばなは、日高地方の文化祭への参加となる。

(委員) **防災について**

広川苑も避難場所として指定された。高齢者は広川苑に誘導することができる。広川町と協議を進める。

→広川町・広川苑・本校と連携し、避難場所や物品について協議を進めていく。

(委員) **有田圏域の福祉避難所はあるのか?**

→(委員) 広川苑も対象。全体的に不足している。

→(委員) あぜ橋を渡ったところにも福祉避難場所がある。場所はあっても、実際に使えるかは課題。

→(委員) 避難場所まで行く手段、行った場所で周りに気を遣わず過ごせる場所の確保が課題。

→(委員) 避難食について、ご飯よりパンの方が需要がある。そのため、作業所に発注もある。

(委員) **保護者の回答率は増えたようだが、少なめなのが気になる。**

(委員) 研修やアンケートは大切である。記名式は有効。それらの繰り返して、個々の意識が変わっていくと思う。

(委員) **教員として自覚ある態度**が教員回答で低いことについて、認識があるなら声を掛け合いながら高めていかねばならない。

(委員) 関連して、校舎から駐車場までの上り坂でスマホを見て歩く教員を見かける。以前事故があったため、危険だと思う。

(委員) **学習の成果**が低いことについては、教員の努力が保護者に伝わっていないと思う。

(委員) **業務改善**12ポイント上昇はすごい。成果の根拠は?

→(校長) 「働き方改革」を宣言し、教職員に説明したことがある。

→(教頭) 行事の精選を皆で行った。家庭とのやり取りは紙面を減らし、SNSに移行した。会議はチームスを活用して集合の回数を減らした。保護者の欠席連絡方法も電話からSNSへの移行を現在検討中。

→(校長) マチコミメールの情報発信ツールを今後も工夫していく。

(委員) 有田市は、「スルール」の色々なチャネルで地域ボランティアがグループに分かれており、グループメンバーが連絡等を取りあえるようになっている。この会のお知らせもそんなふうにできればありがたい。

(委員) 全体を通して、苦慮しているところは?

→(校長) 人権意識を変えていくのは、時間がかかりそうである。でも進めていかなければならない。

(委員) 人材不足も原因の一つではないか? 講師等の補充職員不足もあるのではないか?

知識不足や多忙感が、人権に関わる言動に繋がっているのではないか?

→(校長) 本来であれば、若手の人材育成もベテラン教員の役割になるが、時間の関係上なかなか難しい。

また、年齢的なギャップもあり、感じ方に差もある。大変ではあるが、進めていかなければならないと思う。

(委員) 新しいこともいいが、これまでしてきたことを続けていくことも大切。協力できることがあればさせてもらう。

今年度の評価については、課題はあるが、頑張りが伝わったため、委員会として承認する。

◎拍手をもって承認

③ 目指すこども像について

こども達自身がわかる言葉で【目指すこども像】をつくりたい

たちばなの教員が1人3枚ずつ記した付箋について説明(模造紙) ⇒ 「楽しく・仲良く・自分らしく」を提案

意見・「自分らしく」がいいですよね。

・全部共通しているから絞るのはむずかしい。元気でなければチャレンジや主体性もできない。

・精神面で強くなつてほしい。教師も含め大人も精神面が強くない、だからこそ生徒には強くなる教育を。

・「一人じゃない」とか、「広げようたちはなの輪」、「自分らしくたちはなの挑戦」

・楽しんで思いやりをもつて…、教師がそう思いながら教育すると、生徒が変わってくると思う。

・教師の思いを保護者にみてもらい、保護者に伝わるようにしてほしい。学校評価についても、形として見える部分は評価が高いが、先生方が考えられている見えない部分の評価が低い。

・これを進めるなら、手だても大切になってくる。先生のメッセージを生徒や保護者に伝える共通のものとなるため、教師が理解し、それぞれが伝えていけるようストレートに出したらいいと思う。

*今年度中にまとめて、4月からスタートできるようにする。

